

南アジア地域における地震防災対策計画(ERRP)の国別活動：ネパール

2009年7月15～25日（ポカラ、ネパール）

- 1) ERRP(南アジア地域における地震防災対策計画への技術支援事業)の Regional Proposalとして計画している「ネパール カトマンズでの既存住宅の引き倒し実験」についての現地関係先との打合せ
 - "引き倒し実験用の既存建物も最終的に決定し、10月15日及び26日に予定する引き倒し実験実施に向けての詳細計画をこれから詰めていくことになる。
 - "また、10月14日はネパールの National Disaster Reduction Day にあたり、国の防災イベントとなるので、この引き倒し実験を国レベルの防災イベントに組み込むことで ERRP の事業内容の大きな宣伝機会となる。

- 2) ネパール ERRP/UNDP が Country 活動の一環として実施する「Vulnerability Assessment of Buildings/ Retrofitting and Recovery Preparedness for Municipal Engineers 4日間の Training」(於: Pokhara)



- Training は、テーマに沿った議題で、ネパールの専門家が講義を行い、また、ADRCからも下記3名が講演を行った
 - 大堀ADRC主任研究員「About the importance of the Quality management at the construction stage/ Video on Kobe Earthquake, Recovery of Kobe City」
 - 今井研究員(建築研究所)「Safe Construction Design and Retrofitting Technique」
 - カイザル アリ教授(パキスタン ペシャワール大学)「Case Studies on Retrofitting of Reinforced Concrete Masonry Structures」
- Training 参加者は、ネパール全土の行政府からの技術者・設計者であり、4日間の講義を熱心に受講し、質疑応答も非常に活発であった。
- 「建物が出来てからでは、より安全な建物への品質管理は遅すぎである」と大堀ADRC主任研究員が述べ、工事中の品質管理の重要性を強調した。